

編集後記

特集1「子どもの貧困—成育環境に及ぼすその影響と対策—」は、この問題を取り上げた2017年2月のシンポジウムがもとになっている。この特集では、わが国の「子どもの貧困」問題が、それぞれの専門分野からの分析を通して指摘されている。報告全体を通して感じたのは、「子どもの貧困」問題は、現代日本における家族、社会、経済、政治の貧困が相乗した結果、結局のところ、一番の弱者である子どもたちに最もしわ寄せされたかたちで顕在化した問題ではないかということであった。この問題の解決には、「こども省」の設置といった上からの統合的な視点での政策の提案はもちろん重要であろうが、同時に大切なことは、すべての子どもたちの創造性や豊かな情操を育てる場を、家庭、学校、地域コミュニティなどの連携で作っていくボトムアップの努力ではないだろうか。

特集2「現代社会における分断と新たな連帯の可能性—階層・世代・民族・情報の視点から—」は2017年1月に行われたシンポジウムでの報告をもとに編まれている。この報告は、社会学系コンソーシアムの共催ということで、〇〇社会学あるいは社会△△学といった様々な社会学系研究者により、現代社会における多様な分断の実態と原因の興味深い分析がなされている。ただし、ある報告者も指摘しているように、「新たな連帯の可能性」についての議論は、残念ながらほとんどみられなかった。このような社会の大きな課題の解決には社会学だけではなく、それぞれの社会の形成に関与する歴史的・文化的背景や、社会の基盤を支える資源や自然環境なども視野に入れた分野との学際的研究が必要なのではないかと、編集者の立場から感じた。

この号では、2017年3月に開催された「科学と社会」をテーマにした第8回科学者の集まりの報告もされ、科学と社会のより強固な連携と協働の必要性が強調されている。今回の二つの特集で取り上げられた問題も、学際的研究に加え、まさに社会との協働で取り組んでいくべき課題そのものではないだろうか。

日本学術会議は今月をもって23期から24期へと移行した。これにともない、本編集委員会のメンバーも交代が予想される。新しい編集委員会が立ち上がるまでは、23期の広報委員会・『学術の動向』編集委員会が編集作業を担当することになっている。

『学術の動向』編集委員会

委員長

小松久男

(日本学術会議第一部会員、東京外国語大学特別教授)

副委員長

大竹 暁

(国立研究開発法人科学技術振興機構上席フェロー(国際担当))

那須民江

(日本学術会議第二部会員、中部大学生命健康科学部教授)

渡辺美代子

(日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事)

委員

秋山弘子

(日本学術会議連携会員、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授)

石田寛人

(公益財団法人本田財団理事長)

笠原 忠

(日本学術会議連携会員、国際医療福祉大学大学院教授)

狩野光伸

(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授)

佐藤岩夫

(日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所教授)

島 蘭 進

(日本学術会議連携会員、上智大学大学院実践宗教学研究科教授、同グリーンフューチャー研究所・所長)

委員

嶋田 透

(日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

武市正人

(日本学術会議連携会員、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構研究開発部長・教授)

沼野充義

(日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授)

萩原一郎

(日本学術会議連携会員、明治大学先端数理科学インスティテュート(MIMS) 所長、研究・知財戦略機構特任教授)

向井千秋

(日本学術会議第二部会員、東京理科大学副学長)

安成哲三

(日本学術会議連携会員、人間文化研究機構総合地球環境学研究所所長)

山川充夫

(日本学術会議第一部会員、帝京大学経済学部地域経済学科教授)

山崎典子

(日本学術会議連携会員、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所准教授)

渡辺芳人

(日本学術会議第三部会員、名古屋大学理事・副総長)